《 1 大規模荷主 》

| 事業者 | 名 日本信号株式会社 | 事業所名 久喜事業所 | | | |
|--------------|---|---|----|----|----|
| | 取 組 措 置 | 具体的取組措置 | R3 | R4 | R5 |
| (01) | 荷主の物流部門における二酸化炭素排出量の把握 二酸化炭素排出量の把握及び課題等の抽出 | 環境活動として月次の軽油使用量の報告を義務付け、事業所としての月 次CO2排出量を把握、四半期ごとにマネジメントレビューを実施 | 0 | 0 | 0 |
| 02 | 環境に配慮している貨物輸送事業者の選定 貨物輸送事業者の環境配慮の確認 | ISO14001を取得しており、事業所に常駐するグループ、協力会社は事業所環境方針に基づく環境活動に参画させている。貨物輸送事業者も同様に各活動に参画させ月次の軽油使用量を報告させ、事業所全体のCO2排出量削減への取り組みを実施中である。 | 0 | 0 | 0 |
| 04 (01) | 積載率の向上による輸配送の効率化 商品・荷姿・梱包資材の形状の標準化や軽量化等による積載率の 向上 | 安全性・信頼性の観点から、製品の機能・性能の維持を大前提に軽量化 及び小型化に努めている。 | 0 | 0 | 0 |
| 04 (02) | 積載率の向上による輸配送の効率化 混載便の利用や共同輸配送の取組 | 軽量化及び輸送の効率を検討し、情報セキュリティー管理上十分な精査を 行った上で、混載可能な製品については同梱包化等に努めている。 | 0 | 0 | 0 |
| 04 | 積載率の向上による輸配送の効率化 輸送量及び積載率を考慮した適正車種での発注 | 事業所間における定期混載便の活用を標準とし、貸切便は積載率等を検 証、最適な車種を選定している。 | 0 | 0 | 0 |
| 05 | 計画的な貨物輸送による輸配送の効率化発注時間及び配送時間のルール化 | 輸送(発送)依頼受付時間を厳格化し、客先ユーザーより指定がある場合 や緊急(災害時を含む)時は責任者の承認を必要とし、原則時間指定を禁 止している。 | 0 | 0 | 0 |

| 05 (02) | 計画的な貨物輸送による輸配送の効率化 道路混雑時の輸配送の見直し | 道路交通情報に基づき、最適な輸送経路を選択し、運転者の労働環境(健康を含む)を管理し輸配送の効率化を図っている。 | 0 | 0 | 0 |
|--------------|---|--|---|---|---|
| 05 (03) | 計画的な貨物輸送による輸配送の効率化輸送車両の待ち時間の削減 | 待機時のアイドリングストップを徹底し、積載・発送時間を定時化するにより、待ち時間を削減している。 | 0 | 0 | 0 |
| 07 | 低燃費車等の積極的利用及びエコドライブの促進 貨物輸送事業者に対する、エコドライブの実施要請 | 事業所のホームページにエコドライブ10を掲載し、従業員に対しエコドライブの励行を喚起している。 | 0 | 0 | 0 |
| (03) | 低燃費車等の積極的利用及びエコドライブの促進 貨物輸送事業者に対する、低燃費車等の利用状況やエコドライブの 実施状況の確認、改善に向けた取組の実施 | 貨物輸送事業者に対し、アイドリングストップやエコドライブの徹底、実施 状況について確認し、改善に向けた要請を行う。 | 0 | 0 | 0 |
| (04) | 低燃費車等の積極的利用及びエコドライブの促進 周辺道路への路上駐停車及び構内アイドリング防止のための取組 | 構内に出荷用専用駐車場及び納品用専用駐車場を設けている。 | 0 | 0 | 0 |
| () | サードパーティーロジスティクスの活用 | 貨物輸送等をサードパーティーロジスティック事業者に委託している。 | 0 | 0 | 0 |
| () | 共同輸配送も視野に入れたモーダルシフトの推進 | 貨物が鉄道コンテナに搭載可否を判断し、有効であれば鉄道輸送を利用。 | 0 | 0 | 0 |

《 3 マイカ―通勤多数 》

| 事業者 | B 日本信号株式会社 | 事業所名 | 久喜事業所 | | | |
|--------|---------------------------------|---|--|----|----|----|
| | 取 組 措 置 | | 具体的取組措置 | R3 | R4 | R5 |
| 02 | 公共交通機関への転換の推進 | 事業所を起点として、最寄り駅(久喜駅・新白岡駅)より送迎シャトルバスを 運行している | | 0 | 0 | |
| (02) | 送迎バス等の運行 | | | | | |
| 02 | 公共交通機関への転換の推進 | ■ 電車の運行時刻に応じた送迎バスの運行時刻時刻、運行本数を調整し、 」より通勤し易い環境を整備している。 | 0 | 0 | 0 | |
| (03) | 公共交通機関利用者への優遇策 | 、より匹到しの | より通動し勿い環境を登開している。 | | 0 | |
| 03 | 自転車への転換の推進 | 事業所の安全衛生委員会が実施する安全巡視にて、登録証、整備状態を , 点検し、申請者には任意保険加入状況を確認している。 | 全衛生委員会が実施する安全巡視にて、登録証、整備状態を 表には任意保険加入状況を確認している | 0 | 0 | 0 |
| (01) | 自転車の安全利用の促進 | | 0 |) | | |
| 03 | 自転車への転換の推進 利用しやすい駐輪場の設置・維持管理 | 事業所には多くの従業 | 2棟の建物があり、それぞれ屋根付きの駐輪場を設置し、より 員が利用出来るよう、定期的に利用状況の点検、整理、整頓を る。 | 0 | 0 | 0 |
| (02) | | 大心している | | | | |
| 03 | 自転車への転換の推進 | 全従業員に | 対し更衣室を完備している。 | 0 | 0 | 0 |
| (03) | 駐輪場以外の自転車通勤者向け設備の設置・維持管理 | | | | | |
| 04 | その他マイカー通勤を削減するための取組 | 自家用車に 自家用車通 | よる通勤者に対し社内規定に基づき通勤手当を支給している。 勤者は所定の申請書による許可制により運用している。 | 0 | 0 | 0 |
| (01) | 自家用自動車の通勤手当及び許可基準等通勤制度の見直し | | | | | |

| (04) | その他マイカー通勤を削減するための取組 テレワーク制度の導入 | 社員一人ひとりが責任をもって時間管理を行い、個人のワークスタイルによる効率的な労働環境の構築を目的としてテレワーク制度を導入している。また、コロナ感染症対策として従業員の70%の導入を目標に取り組んでいる。 | 0 | 0 | 0 |
|--------------|------------------------------------|---|---|---|---|
| 05 (01) | エコドライブの啓発 | 事業所のホームページに「エコドライブ10」を掲載し、快適なエコ活動の推進による快適な会社生活の実現に向けた行動と意識の醸成を促している | 0 | 0 | 0 |
| 06 | 従業員の通勤車両に関する低燃費車利用促進 低燃費車の購入支援等 | 業所内に電気自動車(EV)車用の充電機器を設置している。 | 0 | 0 | 0 |